

# 大学を拠点としたクリエイターズ・ギルドの可能性

The Concepts for the University base “Creators’ Guild”.

美術学科

井上友子

Tomoko Inoue

## 1. 研究の背景

本研究は、2010年3月に発行された日本デザイン学会誌『デザイン学研究特集号』に、論文「北部九州における伝統的織物のパタンデザイン—博多織を中心に」を寄稿し、地域の伝統工芸を学術的視点で調査・報告したことに端を発する。2012年から2年間は、JSPS科研費24653238の助成を受け、多くの地元企業と学生が協同開発したデザインで地域貢献を行なう試みの教育的実践例としてメディアに広く紹介されてきた。これらを通じて、本学芸術学部が目指すべき方向性や芸術学部の学生に求められる資質や能力について、具体的調査とデータ集積が進められている。

継続中の研究は6年目を迎えた博多織と3年目の博多人形の再生をテーマとした企業と学生の協同活動、それらを素材とした小学生以下の児童に対するワークショップ、さらに地元タクシー会社の企業コンセプト再考とタクシー・ボディのリ・デザイン、26年度から加わった八女福島の灯籠人形舞台背景幕修復事業などである。

舞台背景幕修復事業は、企業ではなく行政と灯籠人形保存会との関わりの中で実現し、産業界とは一線を画した伝統文化継承活動として、アカデミックな性格が強く、大学の取り組みとして理想的事業であると考えている。なお、八女福島の灯籠人形舞台背景幕事業は26年度前期に26年度分の作業が終了しているが、報告は次の第47巻で行なうこととする。

博多織と博多人形の再生プログラムは、企業連携型の実践教育を基本とし、学生にとっては自身のデザインを製品化に結びつけるための積み上げ型トレーニングである。また、企業にとっては学生世代の感性を調査することができ、それらを敏

感に取り込む好機となる。

博多織と博多人形は、福岡を代表する伝統的工芸品である。伝統的工芸品は昭和49年5月25日に施行された伝産法に基づき215品目（平成25年3月集計）が指定され、福岡県は上記2品目を含む7品目（他には、小石原焼、上野焼、八女福島仏壇、八女提灯、久留米緋）を有している。なかでも博多織と博多人形は、都市化が著しい福岡市の中心部に発生と存続の拠点を置く貴重な存在として全国的に著名である。

歴史的背景を簡潔に述べると、博多織は、1241年、鎌倉時代に円爾（弁円）と共に宋から帰国した博多商人・満田弥三右衛門が唐から持ち帰った唐織の技術を元に、16世紀に弥三右衛門の子孫・彦三郎と竹若伊右衛門が厚地の織物を作ったことに端を発するとされる。江戸時代には、福岡藩主・黒田長政が幕府への献上品に博多織を用い、以後「献上博多」「博多献上」と呼ばれるようになった。

一方博多人形は、16世紀後半～17世紀初頭、安土・桃山時代に黒田藩が集めた職人により、博多の土で素焼き人形が作られたことに始まったとされる。「博多人形」と呼ばれるようになったのは、1890年（明治23年）、東京で開催された内国勧業博覧会で受賞した褒賞状にこの名称が使用されたためであり、それ以降「博多人形」が公称となった。明治32年のパリ万博では精緻な技工が高く評価され、各国に輸出されるようになった。

博多織・博多人形とも、1976年（昭和51年）の伝統工芸品指定以降、高度経済成長の波に乗って我が国の伝統工芸を代表する製品となったが、好調な経済発展とは裏腹に伝統工芸の継承は困難な状況へと突き進んでいった。博多織は、生産額187億円、組合員数168名に達した昭和52年が

産業のピークであり、二度のオイルショックとバブル崩壊で減少傾向が明白になった。H23年度は生産高24.3億円とピーク時の13%代まで落ち込み、組合員数は48名と28%代まで減少した。一方博多人形では、生産額は昭和55年の2657億円がピークとなり、その後次第に減少しつづけ、H23年度は、ピーク時の0.3%代、7.9億円まで落ち込んだ。

生産額、企業数、従事者数が激減する伝統的工芸品の傾向は福岡だけでなく全国的な現象である(図1)。

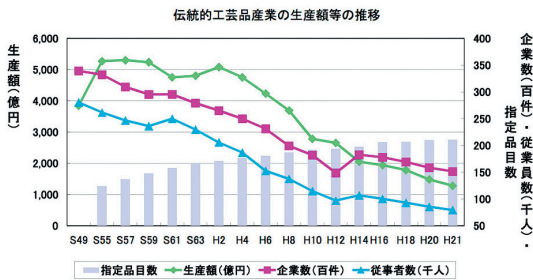


図1 出典：(財)伝統的工芸品産業振興協会

これらは言うまでもなく、時代の推移による生活様式の変化、安価な輸入品の増大等の影響が及ぶ深刻な問題であり、憂慮され始めて久しい。しかし、これまで決め手となる問題解決策は見いだせず、事実上放置された状態にある。将来的にこれらは、必ずや文化的空洞化現象を引き起こすと推察され、伝統文化や伝統技術の連鎖的衰退、消滅などへと発展する危惧は非常に高い。

児童を対象としたワークショップを行なう理由は、以上のようなデータに基づく推測に鑑み、居住環境や生活環境の変化、人口の流入により家庭や地域のコミュニティーで伝統的工芸品に触れる機会が激減し、地元といえども伝統工芸や産業に対し知識を持たない子供たちや若い世代の急増が著しいからである。このまま放置すれば、前に述べたような文化的空洞化現象がさらに加速し、地方の豊かな伝統文化を喪失することにつながることは間違いない。

また、福岡創業のタクシー会社からは、女性ドライバーのためのタクシー・デザインが依頼され

た。女性のタクシー・ドライバーは、1999年の労働基準法改正以前から少なからず存在していたが、家庭の事情や安全面の確保から男性優位の職場環境である。依頼主のタクシー会社が女性経営者であったことから、女性のための労働環境の改善につながるアイデアが求められ、この活動の背景となった。芸術学部として請け負ったのはタクシー・ボディおよび行灯のり・デザインである。

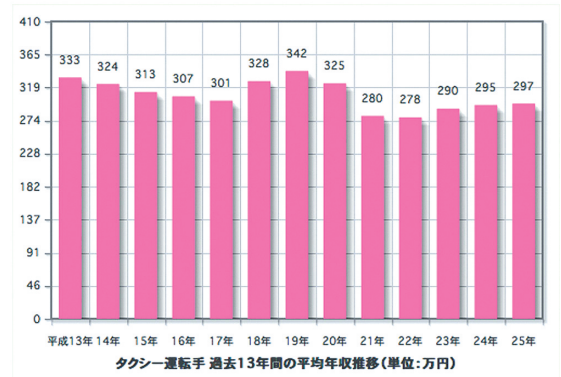


図2 タクシー運転手過去13年間の平均年収推移 (単位:万円)

平成25年度のタクシー・ドライバーの平均年収は297万円と決して恵まれているとは言えず、とりわけ女性ドライバーは、上記に挙げた事情により日中の限られた時間内での勤務に制限され、平均年収も267万円と決して高いとは言えない(図2)。この状況を少しでも改善したいと、女性ドライバーのモチベーションを保持し、効率よく収入を得ることができるよう快適で話題性のあるタクシー・ボディと行灯のデザインが依頼されたのだった<sup>(注1)</sup>。

## 2. 研究の目的

本研究が目指す目的は大きく2つに分けられる。まず、ひとつめは、大学が有する技術的・物理的・人的資源を利用し、地域の伝統的工芸品の質、技術の維持、継承に貢献し、安定的仕組みづくりを行なうこと、さらに労働者に優しい環境整備をデザインベースで思考することであり、それらを素材として大学を拠点としたギルドの可能性を探ることである。

またもうひとつの目的は、芸術系学生の社会進出に光明をもたらすための教育基盤の構築である。

ひとつ目の目的である伝統的工芸品の質、技術などの維持、継承の方法論、地元企業とのコラボは実践活動を基礎におくことから芸術教育の素材になる。よって、2つ目の目的を果たすための学生の専門的知識の修得、技術の向上、アイデアのアウトプットなどに直接働きかけることができる。

下記の図のデータが示すように、芸術系卒業者の就職率が低迷していることは通説となっており、芸術学部を抱える本学においても喫緊に検証する問題となっている。

芸術系卒業者の進路は大学院進学、フリーランス活動希望などの割合が高く、社会にでて非正規雇用者の割合が高い。また、実際に、正規雇用を前提に研修制度の名の下に働き始める非正規雇用者の数は、他文系や理系学部と比較すると圧倒的に多い(図3、4)。

一方で、芸術系卒業者の専門を活かした就職先は、小規模のデザイン事務所、アトリエ系設計事務所、個人経営のギャラリー、イベント企業の企画、ゲーム製作会社、地場産業の図案担当などに代表され、しかも受け入れのパイは小さい。多くの学生が希望する安定した教諭職や高い教養が求められる学芸員のような研究職は、300倍を超える狭隘たる様相を示し、同様に、大企業のデザイン部門などもきわめて激戦である。

このような状況下では、他文系・理系卒業者と同様の就職率が得られるはずもなく、はからずも芸術系卒業者の就職率の低さが強調される結果を招いているのである。

このようなデータや印象は、受験生や保護者の芸術系学部への進学を躊躇する要因にもなっており、昨今の芸術離れを加速させる原因にもなっている。

事実、オープンキャンパスや進学相談会では、卒業後の進路を憂う相談が寄せられ、ともすると、高校の進路指導の教諭までも同じ懸念を言葉にするケースが後を絶たない。

そのようなネガティブなイメージの連鎖に歯止めをかけ、芸術系卒業生の社会進出に光明をもたらすためにも、実践的芸術教育の組織基盤の構築が急がれるのである。

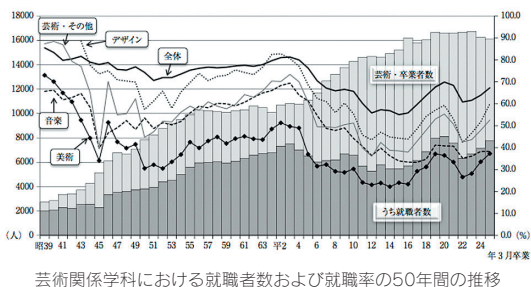


図3 「芸術系大学出身者と労働」(出典：喜始照宣 p.50. No.645 / April 2014【特集】「先生」の働き方：教師の世界 東京大学大学院)

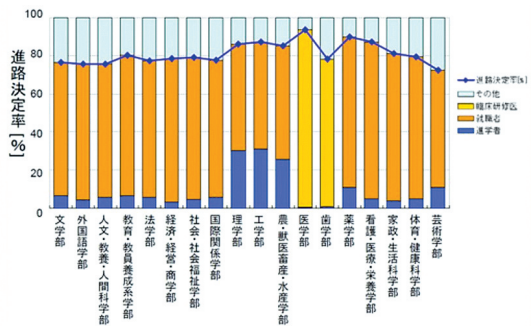


図4 平成25年度 学部系統別に見る進路決定率 (出典：旺文社)

### 3. 研究方法

#### 3-1. 博多織と博多人形

芸術学部と西村織物株式会社および鵬翔株式会社(いずれも博多織)と後藤博多人形株式会社および壺語屋株式会社(いずれも博多人形)との共同研究では、新たな価値観を備えた伝統工芸品の創造を試みた。

博多織のテーマ設定では、「シチュエーションに合わせた」デザインや「作家が織った着尺にあった」デザイン、「着尺」デザイン、「縞」「献上柄」「平織」といった企業が準備したテーマに即したデザインが手描きやコンピューター製作で進められた。また、人形では、共通の型に各自テーマ設定を行ない、型に直接加飾する立体型デザインが取り入れられた。



### 3-2. ワークショップ

ワークショップでは、久留米緋を取り上げ、パワーポイントで歴史解説を、拡大模型を使って織組織の仕組みを説明した。実作には、学生自身が天然の藍で染めた木綿の生地を1センチ幅で裂いた模型糸を準備し、小学生以下の児童でも取り組むことができるよう工夫を凝らした。

実施箇所はアイランドシティ・アーバンデザインセンターおよび香椎公民館である。参加延べ人数は50名を超え、福岡県の伝統的工芸品の成り立ちやこれまでの経緯、仕組みなどを学んだ。

### 3-3. タクシー・ボディ、行灯

家庭、育児、保安上の事情により日中の限られた時間内の勤務に制限され、平均年収も267万円と高いとは言えない女性ドライバーの労働環境を改善し、収入増につなげられるために経営者から依頼されたのは、ドライバーの働くモチベーションを保持し、効率よく収入を得ることができるような快適で話題性のあるタクシー・ボディのデザインである。

ボディおよび行灯のデザインを行なう上で、「女性目線で気配りのあるタクシー」をコンセプトとして設定し、インテリアには妊婦や高齢者が安心して利用できる室内装備（ビニールシート、クッションなど）を、エクステリアには花のモチーフを中心に色調も優しい色合いに統一するよう心がけた。

大学院生一人と学部生2人、合計3名でこの課題に取り組み、「ドライバー、乗客の両者に快適で優しいタクシー」デザイン考案を目標に定め、女性らしい優しいイメージをビジュアルに落とし込んだ。

## 4. 研究結果

### 4-1. 提案から製品化および実用まで

#### (1) 博多帯

博多帯は、3回のプレゼンテーションを通じてデザインの調整が図られ、先染め帯では、2種の半幅が6配色150本ずつ、1種の八寸名古屋が4配

色150本ずつ、紗による1種の名古屋夏帯1本、後染め帯では3種、うち2種は15本ずつ、一種は高めの値段設定で特注扱いの1本、計7種、2431本が製品化され、3万円～40万円の価格で販売された。

#### (2) 博多人形

博多人形を代表する「美人もの」は、伝統産業の因習的枠組みから抜け出ることが困難である。学生が提案した図案は細部描写に秀で、精巧な作りであることから、採算があわず、製品化が中断している。学生案では同じ型の人形の2倍～3倍のプライスでも利益が望めないため、販売力がさらに低下するという結論に達した。

一方「童もの」は、前年度に引き続き4種が製品化され、価格帯も2000円代半ば～3000代半ばの3タイプが準備され、プラスチックケースつきで販売され、好調な売れ行きを示している。

#### (3) タクシー・ボディデザインと行灯

6月7日(土)に「ピンクプリウス」第1号として公式に発表され、さまざまな方面で注目された。限定デザインのタクシーという話題性が効を奏して、客を捜して「流す」時間帯がなくなり、短時間労働でも確実に収入を得ることのできる「魅力あるタクシー」、乗客から「見つけたら乗りたいと思われるタクシー」という位置づけが与えられ、予約を望む電話が殺到していると報告を受けている。

### 4-2. 成果展示による実践力の確認(帯および人形)

2月20日から3月1日まで天神中心の商業施設IMSで開催した「絹鳴」展では、商品化された帯20本と、素焼きの型にそれぞれのデザイン案を絵付けした12体の「美人もの」人形と職人による2体の学生案「美人もの」人形が並び展示された。「童もの」については、環境に優しい新たな素材を用い、ポップなデザインで現代性が強調され、プラスチックケースに入った4体の製品と、26体の学生作品人形が飾られた。

展示会場ではそれぞれ、年代別好みアンケートが実施され、集計されたデータが企業に渡された。

### 4-3. ジャーナリズムの反応

帯および人形の最終成果展示にはNHK、KBC、RKB、FBS、紙面では読売、毎日、朝日、西日本、天神経済新聞、博多経済新聞など報道各社により「九産大生が“地域産業展”」「九産大、企業が連携“プロジェクト展”」「地域伝統産業と九産大生コラボ“伝統工芸・産業若者目線で”」などの見出しで取り上げられ、一部商品は雑誌「七緒」に掲載された後、福岡県知事賞も獲得した(図5、6、7)。

タクシー会社のピンクプリウス・デビューセレモニーには、FBS、毎日などの報道各社が取材に訪れ、6月11日にはNHKの「熱烈発信福岡NOW」で製作までの様子が放映された(図8、9)。



図5 天神イムズ展



図6 雑誌「七緒」2014

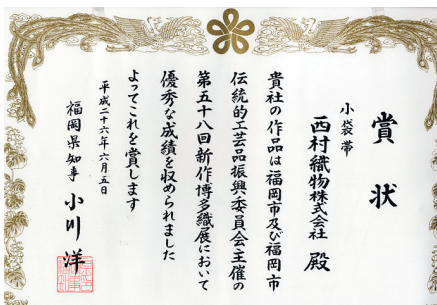


図7 西村織物により製品化された学生案が福岡県知事賞受賞



図8 セレモニー



図9 行灯

### 5. まとめ

本研究では、企業と協同でリ・デザイン活動を継続し6年目を迎えた博多織と3年目の博多人形の再生をテーマとした活動、さらにそれらを素材とした小学生以下の児童に対するワークショップ、タクシー・ボディと行灯のリ・デザインなど、企業と協同で実施した実用化取り組み例を報告した。

これら福岡の伝統産業の認知度と販売促進ならびに地元女性の労働環境の改善をデザインベースで考案するリ・デザインを通じて、学生の実践力修得について考察を続けている。

彼らは地域の伝統産業や地元企業との連携活動を通じ、予想もつかなかったさまざまな問題に直面し克服する力を身につけ、製品化や実用にいたるまでのフローや産業構造を学んだ。その結果、芸術系学生の社会的役割の拡大や、大学を拠点としたギルド活動の可能性を証明した。

注1 [http://nensyu-labo.com/syokugyou\\_taxi.htm](http://nensyu-labo.com/syokugyou_taxi.htm)  
(2014.10.27アクセス)

### 参考文献

- 1) 井上友子、青木幹太、佐藤佳代、星野浩司、荒巻大樹「企業連携を通じた美術領域の可能性」『九州産業大学芸術学会研究報告』第45巻、41-48頁、2014年3月1日
- 2) 青木幹太、井上友子、佐藤佳代、星野浩司、荒巻大樹、「地域産業プロモーション2012ー博多人形のリ・デザイナーー」『九州産業大学芸術学会研究報告』、第45巻71-74頁、2014年3月1日
- 3) 井上友子、青木幹太、星野浩司、佐藤佳代、荒巻大樹「地域産業振興とその人材育成を目的とした取り組みII」『九州産業大学芸術学会研究報告』九州産業大学芸術学会、第44巻、89-102頁、2013年3月1日
- 4) 井上友子、青木幹太、星野浩司、佐藤佳代、佐藤滋、荒巻大樹「地域産業振興とその人材育成を目的とした芸術学部の総合的取り組み」『九州産業大学芸術学会研究報告』第43巻、

93-108頁、九州産業大学芸術学会、2012年  
3月1日

- 5) 井上友子「企業連携を通じた実践力の習得」、  
日本デザイン学会第61回春季発表研究発表会  
『しあわせのデザイン』概要集、福井工業大学、  
2014年7月5日
- 6) 青木幹太「プロジェクトと型デザイン教育の実  
践」日本デザイン学会第61回春季発表研究発  
表会『しあわせのデザイン』概要集、福井工業  
大学、2014年7月5日
- 7) 佐藤滋「博多人形PVプロジェクト」日本デザ  
イン学会第61回春季発表研究発表会『しあわ  
せのデザイン』概要集、福井工業大学、2014  
年7月5日
- 8) 星野浩司「地域産業と食育を主題とした映像  
制作による実践教育プログラム開発」日本デザ  
イン学会第61回春季発表研究発表会『しあ  
わせのデザイン』概要集、福井工業大学、2014  
年7月5日
- 9) 財伝伝統的工芸品産業振興協会
- 10) 喜始照宣「芸術系大学出身者と労働」No.645  
/April 2014【特集】「先生」の働き方：教師  
の世界
- 11) H25年度 学部系統別で見る進路決定率、旺  
文社